

軟式野球競技大会特別規則

1. 試合時間

- (1) 球場入りに関しては必ず球場長に確認すること。
- (2) 第1試合開始時刻は、開会式終了後大会本部で協議の上、決定する。(試合時間は90分と計算し、その60分前に集合すること。)
- (3) 連続試合の場合は30分間の休憩をとる。

2. オーダー交換

- (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(4部提出)
- (2) 第1試合の打順表の交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の45分前に監督立ち会いの上、主将が行う。第2試合以降は、前の試合の4イニング終了時に行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。選手名にはふりがなも付けること。

3. ダッグアウト

- (1) 抽選番号の若い方を原則として1塁側とする。但し、連続試合の場合はその限りではない。
- (2) 学校長、監督、コーチ、記録員、選手以外のベンチ入りは禁止する。
- (3) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止する。
- (4) ダッグアウト内のメガホンは1個とし、使用は監督、コーチのみとする。

4. ゲーム前のノック

- (1) シートノックは後攻めより5分間とする。ノッカーは選手と同じユニフォーム・シューズを着用し、監督・コーチが行うこと。但し、天候等の理由から行わない場合もある。
- (2) ノック時のボール拾いを、登録外の生徒(5名以内)で行ってもよい。但し、ユニフォーム・ヘルメットを着用すること。

5. 応援

- (1) 地区中体連の規定及び各学校の規則に沿った中学生らしい身なり・容姿で参加する。
- (2) 中学生にふさわしい応援をする。(相手に対してのやじ等は禁止する。)
- (3) 応援は攻撃側のチームを優先とする。

6. 投手の投球制限・「申告故意四球」

- (1) 夏季大会においては、投球制限は適用しない。(新人大会は、適用する。)
- (2) 「申告故意四球」を適用する。

7. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限

捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3回以内とする。
なお、延長戦(タイブレークを含む)となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
また、攻撃側についても同様とする。

8. 監督が投手の所へ行く回数の制限

- (1) 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は7イニングで3回以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)では、2イニングに1回行くことができる。
- (2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2回目に行くか行つたと見なされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備位置についたときには、同一イニングには再び投手には戻れない。

9. その他

- (1) 球場内において、試合前の練習はユニフォームを着用すること。
- (2) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(投手と打者のみ)までとする。
- (3) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
- (4) 球場での芝面利用の際、試合及び正規のシートノック以外は、芝生保護のためスパイク以外のシューズで行うこと。
- (5) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色・同形のユニフォーム・帽子を着用する。なお、監督・コーチのシューズについても同色とする。コーチ(教職員)の服装は平服(ワイシャツまたはポロシャツ、スラックス、選手と同一の野球帽子)でもよい。また、記録員についてはユニフォームか制服とする。
- (6) 手袋は原則として「白」または「黒」を主とした高校野球対応の手袋を使用する。また、

リ ストガード（一体型も含む）の使用は認めない。（新人大会での使用は認める。）